カマキリの生活

五年二組　中野　玲央那

カマキリは卵から産まれる。産まれて二日ほどたつと、卵からはなれて成長する。生まれたてのカマキリは小さく弱いので、アブラムシなどの小さい虫を食べる。しかし、自分よりも大きい肉食昆虫には食べられてしまう。また、カマキリ同士が出会うと共食いをしてしまう。より一層強いものが勝つ。弱肉強食のサバイバルだ。

全種類のカマキリは必ずだっ皮をして、大きくなる。だっ皮を何度もくり返して成虫になるのだ。成虫になる時のだっ皮を羽化といい、命がけで行う様子はすごい。万が一羽化に失敗して羽化不全を起こしてしまうと、生きのびづらくなる。不自由な体になる。

成虫になったカマキリは、卵を産み、じゅ命がつきる。立派だ。

このようにカマキリは、命がけで日々を過ごし、子そんを残す。これらのことは、実際

20 × 20

にぼくがカマキリをつかまえて、育て、卵を産ませ、だっ皮をサポートしてわかったことだ。カマキリはぼくに生きる強さやはかなさを教えてくれる大切な昆虫だ。だから、ぼくにとってカマキリは、興味のかたまりだ。これからも、カマキリを観察していく。

20 × 20